

2. 底生動物調査結果の概要

2. 底生動物調査結果の概要

(1) 分布状況から見た河川環境の特徴

今回とりまとめを行った 38 水系 39 河川で確認された底生動物は、貝類等の軟体動物、ミミズ等の環形動物、およびエビ類、昆虫類等の節足動物等 69 目 250 科 848 種でした。確認種数が多かった一級河川は、中国地方の太田川の 350 種、斐伊川の 277 種、次いで東北地方の名取川の 264 種、雄物川の 258 種等でした。

(2) 特定種一覧 (資料 II.2.1)

今回とりまとめを行った 39 河川で確認された特定種は、レッドリスト絶滅危惧種 I 類に指定されているヨコミゾドロムシ、絶滅危惧種 II 類に指定されているカワシンジュガイ、キイロヤマトンボやビワアシエダトビケラ等 16 種でした。

(注) 特定種について

本資料においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種を特定種としました。

- ・ 「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- ・ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種及び緊急指定種
- ・ 環境省(庁)編「レッドリスト」掲載種(2000)

(3) 外来種一覧 (資料 II.2.2)

今回とりまとめを行った 39 河川で確認された外来種は、サカマキガイやカワヒバリガイ、およびアメリカザリガニの 17 種でした。

(注) 外来種の選定基準について

本資料における外来種とは、おおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物全てを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、困難な種があるため選定の際に考慮していません。また、外来種の選定には、資料 I. 5(44~45 ページ)に掲載した文献と学識者による意見を参考に行っています。

(4) カゲロウ目・カワゲラ目・トビケラ目の構成種数 (資料 II.2.3)

確認状況の概要は 7 ページに、また、これら選定種の確認状況は 81 ページに掲載されています。

(5) モクズガニの確認された地域 (資料 II.2.4 (1))

確認状況の概要は 8 ページに、また、これら選定種の確認位置図は 82 ページに掲載されています。

(6) カワニナの確認された地域 (資料 II.2.4 (2))

確認状況の概要は 8 ページに、また、これら選定種の確認位置図は 83 ページに掲載されています。

(7) ヤマトシジミとマシジミの確認された地域 (資料 II.2.4 (3/4))

確認状況の概要は 8~9 ページに、また、これら選定種の確認位置図は 84~85 ページに掲載されています。

(8) コオニヤンマの確認された地域 (資料 II.2.4 (5))

確認状況の概要は 9 ページに、また、これら選定種の確認位置図は 86 ページに掲載されています。

(9) スクミリングガイ (ジャンボタニシ) の確認された地域 (資料 II.2.4 (6))

確認状況の概要は 19 ページに、また、これら選定種の確認位置図は 87 ページに掲載されています。

(10) カワヒバリガイとコウロエンカワヒバリガイの確認された地域 (資料 II.2.4 (7/8))

確認状況の概要は 19 ページに、また、これら選定種の確認位置図は 88~89 ページに掲載されています。

(11) カワニナ、ヤマトシジミ、マシジミ、モクズガニ、コオニヤンマ、スクミリングガイ (ジャンボタニシ)、カワヒバリガイとコウロエンカワヒバリガイの確認状況の経年比較 (資料 II.2.5)

確認状況の概要は 8~9、19 ページに、これら選定項目の河川ごとの経年確認状況についての比較表は 90 ページに掲載されています。